

CHIMERA

新たなスポーツ施設の提案

120329 前田一視

高知工科大学工学部社会システム工学科

敷地範囲があまりない都市部にスポーツ施設を高層化させ配置した。そして、その同一建築内に異なる由来を持っているスポーツ通し人々が繋がっていく新たなスポーツ施設を設計した。

Key Words: スポーツ、つながり、高層化

1. はじめに

現在、都市化が進み生活が便利、快適になってきている。その反面様々な問題が出てきていて、その例として人々の運動不足、コミュニケーション不足などもあげられている。そこで、その問題に向け、私は都市部にスポーツを通じ人と人が繋がっていきける新たな施設を提案する。

2. 敷地の選定

敷地は、兵庫県神戸市にあるメリケンパークを対象にした。



写真1. 神戸市 航空写真

2.1 敷地選定の理由

- 神戸メリケンパークには、南側で壮大な海、そして北側では山が見え、自然を感じる事が出来る。
- 神戸の都市域では、ちょっとしたスポーツクラブや体育館、フットサル場は存在はするが、様々なスポーツを練習、楽しむ施設がない。
- 隣町に神戸三ノ宮エリアが存在し大半の人がそちらに集中してしまいメリケンパークに足を運ぶ人は平日では特に少なく感じます。そこで、この敷地に三ノ宮には無いスポーツ施設を配置することにより老若男女関わらずスポーツを楽しむ人が訪れメリケンパーク活性化させる。

2.2 敷地の現況

神戸元町の南に位置し、神戸駅から徒歩15分とい

う敷地条件である。港町なため南側には海が広がって見えメリケン波止場と神戸ポートタワーが建つ中突堤の間を埋め立てて造成された地である。周辺には神戸海洋博物館、ポートタワーなどが建設されていて、現在において神戸港を代表する景観の一つになっている。



写真2. 敷地現況写真

敷地周辺には神戸の象徴的な建築物やアートなどがあるにも関わらず写真3のように人気が無く殺風景である。



写真3. 敷地現況写真

3. コンセプト

- 同一建築内に異なる由来を持っているスポーツ施設が合体させることから生物学用語からキメラと名付けた。
- 敷地付近では神戸の象徴的な建築があるためこの敷地の存在感が薄れている。よって、存在感を与える建築物を考えなければならない。
- 敷地周辺を見渡せば山、海も存在している。ので外部空間でそれらを利用し癒しをつくっていく。
- スポーツが出来る施設を提案していくには、敷地が狭いため施設を高層化していく。
- 人と人がスポーツをきっかけにコミュニケーションをはかれる空間を配置する。

3.2 デザインコンセプト

- メリケンパークで、スポーツ施設を設計していくに狭いためスポーツのコートを縦に重ねていき

高層化していく。

- ・ 存在感が薄れている敷地に設計するので、箱状のものをランダムに積み重ねていくデザインにし建築物の存在感を出す。
- ・ 建物に大きい開口をいくつか設け、外部から見た何の施設か象徴していくと同時にスポーツ関心を持ってもらえるようにしました。



模型写真

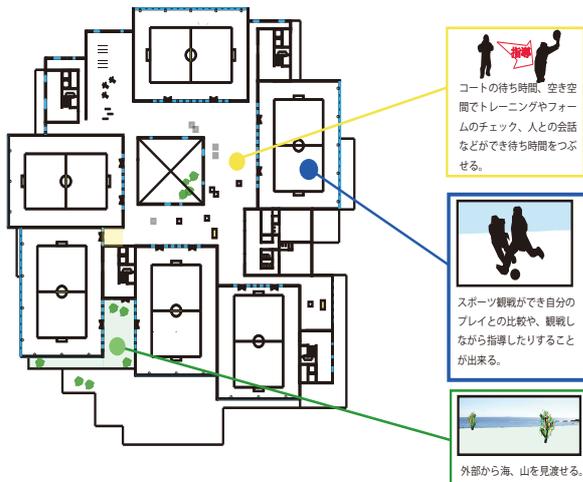
4.施設規模

- 子供用バスケットコート 2面
- 子供用フットサルコート 1面
- バトミントンコート 5面
- 卓球コート 8面 柔道、剣道場 1部屋
- テニスコート 5面 フットサルコート 6面
- バレーコート 6面 バスケットコート 4面

5.全体計画

5.1 平面計画

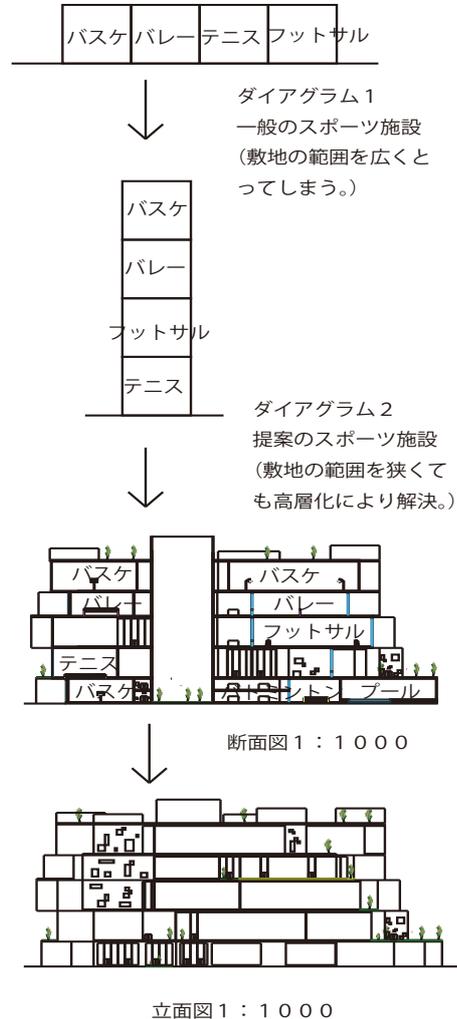
スポーツのコート野は位置ををでこぼこ状に配置することにより空間が出来ます。その空間を利用し休憩場、スポーツ練習、観覧、トレーニングなど出来るようにしました。



平面図 1 : 2 0 0 0

5.2 立面計画

メリケンパークで、スポーツ施設を配置するためには狭いため色々なスポーツコート縦へと重ねていき高層化している。



参考文献

ウィキペディア:<http://ja.wikipedia.org/wiki/キメラ>

Googlemap:<http://maps.google.co.jp/>

Yahoo 画像 : <http://image-search.yahoo.co.jp/>